

の新しい環境でのご活躍を祈ります。

また、博士後期課程では4名の方が晴れて学位を取得されました。郭英華さん(埋土種子を利用した湿地の原植生復元に関する保全生態学的研究)、小杉亜希さん(琵琶湖流域に生育するシロイヌナズナ属野生種の金属集積性に関する研究)、刘鑫さん(Physiological responses of a freshwater copepod *Eodiaptomus japonicus* on different temperature and food conditions, evaluating anthropogenic impacts in Lake Biwa)、中野光議さん(農業水路におけるイシガイ科二枚貝類の保存に関する応用生態工学的研究)の4名です。これまでのご努力に敬意を表すとともに、今後のご活躍を期待いたします。なお、2016年4月からは博士前期課程へ20名、博士後期課程へは1名が入学する予定です。

2)教員の動き

教員にも若干の入れ替わりがありました。まず、倉茂教授が2015年4月から教育・学生支援担当理事として大学全体の運営に参画されることになりました。2015年度は大久保教授(生物圏環境研究部門)、小泉教授(生物圏環境研究部門)、平山准教授(生物生産研究部門)、畑助教(生物生産研究部門)、吉山助教(生態系保全研究部門)の5名の教員を迎えることができました。今後の研究ならびに教育面での活躍を期待しています。一方、2016年3月にはこれまで大学院の教育・研究にご尽力された、生態系保全研究部門の永淵教授を送り出すことになりました。永淵教授は沢田先生、岡野先生と同様にご退職後もひきつづき客員教授の立場で科研費のご研究に従事されるとのことでした。今後のさらなるご活躍をお祈り申し上げます。

3)専攻の運営

2014年度から従来の研究科長・専攻長連絡会にかわる大学院教務連絡会が正式に発足し、全学のすべての研究科長、専攻長が出席し、大学院の教務を中心とした様々な懸案事項を協議する場が設定されました。今年度に大学院教務連絡会で議論してきた項目はおもに①先取り履修制度について、②講義科目のナンバリング、③カリキュラムマップ・カリキュラムツリーの整備について、④学位記の様式の一部変更、⑤大学院修了時アンケートの実施について、でした。カリキュラムツリーの整備に関してはひきつづき次年度も協議を続けることになりました。また、大学院講義科目のシラバスの充実や成績評価基準の整備も今後の大きな課題です。なお、専攻会議は昨年度と同様に原則として奇数月の第一木曜日に

計6回開催し、大学院入試(9月募集)の合否判定のための臨時専攻会議を1回開催しました。

2年間にわたり専攻長を務めましたが、この間大学院入試を始め、大きなトラブルもなく終えることができました。各部門長や所属するすべての先生方の多大なご協力に感謝いたします。

環境計画学専攻のこの一年

上河原 献二

環境計画学専攻長

本年度の学位授与者は、環境意匠研究部門の1名であった。長澤優作さんが、建築史学の立場からまとめた「神社に建立された塔とその本尊にみる神仏習合の特色についての研究」という論文で学位を授与された(審査委員長村上教授、委員松岡教授、陶器教授、京都大学大学院富島准教授)。

学生数(平成27年5月1日現在)は、地域環境経営部門が、博士前期課程4名(M1が1名、M2が3名)、博士後期課程2名(D2とD3)であり、環境意匠研究部門が、博士前期課程35名(M1が17名、M2以上が18名)、博士後期課程が5名(D1が2名、D3が3名)であった。例年のことながら、環境経営研究部門の受験者を増やしていくことが課題である。

環境科学研究科において課題となっていた大学院ホームページの充実に関して、本専攻のうち、地域環境経営研究部門は独自のホームページを整備した。環境意匠研究部門は来年度の実施に向けて検討を行った。

博士前期課程の修了者は、地域環境経営研究部門が2名、環境意匠研究部門が17名であった。